

第 20 回日化協レスポンスブル・ケア賞推薦書

一般社団法人 日本化学工業協会
会 長 岩田 圭一 殿

2025 年 12 月 1 日

推薦者

氏名 : 日化 協兵
会社名 : 日化協化学株式会社
所属・役職 : RC 推進室 室長
連絡先住所 : 〒104-0033
東京都中央区新川 1-4-1
電話番号 : 03-3297-2583
e-mail : rc_info@jcia-net.or.jp

連絡責任者

氏名 : 環境 守
所属・役職 : RC 部主席部員
連絡先住所 : 〒104-0033
東京都中央区新川 1-4-1
電話番号 : 03-3297-2583
e-mail : rc_info@jcia-net.or.jp

推薦テーマ

日本語・英語双方表記

自主活動による環境パフォーマンス改善

Improvement of environmental performance through
voluntary actions ※注：必ず英語表記も記入下さい。

表彰対象部署、表彰対象者 ※表彰対象者数の制限は特に設けませんが、8 名までがプレス
リリース等掲載対象となります。

表彰状に記載する事業所
名、部署名またはチーム名
日本語・英語双方表記

日化協化学株式会社自主環境改善プロジェクト

The voluntary environment improvement project by
JCIA Chemical Co.,Ltd ※注：必ず英語もご記入ください。

対象者氏名 (英語)
所属・役職 日本語表記
英語表記

安全 太郎 (Taro Anzen)

※注：英語表記はパスポートと同じ表記をお願いします

RC 部部长

General manager, RC Division

対象者氏名 (英語)
所属・役職 日本語表記
英語表記

海外 行代 (Ikuyo Kaigai)

海外統括部主席部員

Manager, Management office of overseas affiliates

推薦テーマ業績内容	
推薦テーマ業績概要 200～250 字（厳守）	日化協化学(株)N 工場では、廃棄物・VOC 排出の削減に長年取り組んできた。その結果、2025 年度にはゼロエミッションを達成し、VOC 排出量の大幅削減にも成功した。 本活動は当初、N 工場の廃棄物担当者が始めた活動であったが、その精力的な行動に感化されて工場を挙げて取り組んだ結果、前述の成果を挙げるに至った。さらに現在では、国内工場のみならず海外子会社も含めた全社活動となっている。 なお本取組については、N 地区地域対話において地域社会の皆様にご紹介しており、弊社への理解を深めていただく一助となっている。
この欄の文章は 200～250 字（厳守） をお願いします。 文字数を数える際に、記入スペース全体を選択すると上手くカウントできません。右図のように黄色い着色部だけを選択すると上手く行きます。	上記の文章を選択→（ツールバーで）校閲→文字カウント→文字数（スペースを含める）でカウント
文字数を確認して、ご記入下さい。（247）文字 ① RC 理念との整合性 （重点項目） 活動内容が RC コードと整合しており、日化協の RC 方針と合致するものであるか。また、2014 年改訂 RC 世界憲章のコミットメントを実現するものであるかについて記述。 （URL 参照）	(1) RC コードとの整合性 https://www.nikkakyo.org/sites/default/files/2023-02/RCCode_rl-2.pdf 最もよく当てはまるもの： 環境保全 その他当てはまるもの： 社会との対話 （複数選択可） アイテムを選択してください。 上記の理由（自由記述） 本テーマの活動は、自主的な環境保全活動であり、環境保全コードに見合った活動である。また、その結果をもって、地域社会との対話を行っている。
「アイテムを選択してください」という箇所は、ドロップダウンで選択できます。 「その他当てはまるもの」は最大 2 つまで選べますが、2 つ全てを選ぶ必要はありません。また活動内容によっては、全く選択しなくても問題ありません。	(2) 2014 改訂 RC 世界憲章の内容への貢献 https://www.nikkakyo.org/news/page/6224 最もよく当てはまるもの： 2. 人々の安全と環境を守る その他当てはまるもの： 5. ステークホルダーとの関係を強化する （複数選択可）： 1. 企業のリーダーシップ文化を確立する 上記の理由（自由記述） 上記の通り、基本的には環境保全活動で世界憲章の 2 項に貢献するものであるが、地域社会との対話の点で 5 項、また、海外子会社にまで活動を展開している点で 1 項にも当てはまる。
この欄は、全角・180 文字以内でお願いします。	

この欄も、全角・180 文字以内でお願いします。	(3) RC 倫理との整合性（「環境・健康・安全に関する日本化学工業協会基本方針」を参考に自由記述） https://www.nikkakyo.org/about/basic_policy 廃棄物や VOC を大きく削減している点、法律を超えた自主的取り組みで環境の向上を行っている点、ステークホルダーとの対話を行っている点で RC 倫理と極めて良く合致する活動である。
② 活動の成果・改善度 （重点項目） 活動がもたらした改善（度）や事業所内・社内・社会への成果について具体的に記述。 ② 「活動の成果・改善度」以降の欄につきましては、文字数制限はありません。 記入欄は十分スペースを取っておりますが、不足した場合には、適宜増やしてご記入下さい。	(1) 定量的評価（数値化可能なもの：活動指標、効果指標など） 効果指標として、埋め立て廃棄物量が年間 100t から 0 へ、また VOC 排出量が年間 100t から 10t となっている。また、活動指標として、管理職の環境活動への参加度が 15%から 100% となった。 (2) 定性的評価（意識・能力向上、業務効率化など数値評価が困難なもの） 地域の他工場から見学者を受け入れ、他工場でも同様の活動が行われるようになった。

③ 努力

活動が周囲を巻き込んでいるか、またどんな困難を克服しているかについて記述。

(1) 活動・協力の範囲

当初は N 工場の廃棄物担当者が始めた活動であったため、工場から出す廃棄物のうち埋め立て処分となる量を減らすことが目標であった。

この活動に触発され、中期計画を立てるときに、VOC 削減を工場として取り組むことを決定。VOC 削減には吸着設備を設置する必要があったので、技術開発部門、製造部門、設備部門、総務部門などを巻き込み、2 年を越すプロジェクト業務として実施した。

上記の埋め立て処分量削減や VOC 削減のノウハウは、国内工場のみならず、海外子会社にまで展開され、全社を挙げての大きな活動となった。

(2) 推進上の困難とその克服

- ① 埋め立て処分量を削減するため、産廃をセメントの原料として使えないかをセメントメーカーと交渉。受け入れ可能な産廃の性状を取り決め、それに合致するかどうかを確認するため、産廃を搬出前に検査を行う、スペックアウトしていたら、スペックインするよう調整をする、などの取組を、工場内の品質部門や製造部門の人を説得して行なった。これらの活動を精力的に進めたのが廃棄物担当者である。
- ② VOC 吸着では吸着材の性能が極めて重要であるが、カタログからでは選定は難しい。そこで、パイロット設備を技術開発部門に設置してもらい、試行錯誤を繰り返しながら選定を行った。またプラント運転中に実験に必要なガスを製造課から如何に運ぶか、微量な VOC の濃度を如何に正確に測定するかなど、いくつもの課題を克服する必要があった。これらを 1 つ 1 つ解決し、最終的に極めて効率の良い吸着材を見出すことができた。
この活動を進めるにもまず関係者のベクトルを一本化する必要があり、取りまとめに苦労をした。
- ③ VOC 吸着設備の設置には大きな設備投資を伴ったため、会社トップの納得を得るまでに半年の時間を要した。
その説得のため、経営トップの試験設備視察、試験結果や設備導入のメリットについてのプレゼンを実施。また RC 理念との関連付けについても説明した。
- ④ また海外展開の際には、文化や考え方の違いを克服する必要があった。そのため、現地スタッフと文化交流を含めたコミュニケーションから始め、業務に関しては、徹底的な議論をすることで、チーム力を高めた。

④ 継続性 これまでの継続実績や今後の継続の見込みについて記述。	(1) 活動開始以来の継続実績（年数を明確に） 担当者が廃棄物量を減らそうと活動を始めたのは、約 8 年前である。それに触発され、工場全体で環境問題全般に本格的に取り組み出したのが約 6 年前。VOC 削減のための技術開発はその頃より取り組み始め、現在の中期計画(2020～2025)の中で、環境投資の一環として設備投資を行い、成果を挙げた。 (2) 今後の継続性（継続のための仕掛けを含む） 5 年間の次期中期計画に、使用エネルギーの削減、排水量削減などさらなる環境改善目標とその実施に必要な体制作りを織り込んでいる。
⑤ 横展開の可能性 自社内あるいは他社への横展開の可能性、また、他社の同様の目的の活動に参考となる点を記述。	上記にも記したとおり、弊社の海外を含めた各工場で、本活動を参考として、同様の活動に取り組んでいる。VOC 削減の手法では YYY 関連の製品を製造している業界では、直接応用できる手法であり、また、化学産業全体にも進め方等参考になる部分はあると考える。
⑥ 独創性 活動そのものあるいは活動の推進方法に関し、従来なかった視点を取り入れたり、従来のやり方を発展させる工夫を行ったりしているかを記述。	環境能力認定制度や XXX 情報交換会など、他社にないユニークな企画を通じて、活動者のモチベーションの持続に努めた。

添付資料リスト (活動の内容を明確にし、上記 6 項目による評価の参考となるような資料を添付してください。既存の資料可。)	＜資料は複数でも構いません。また 2 次審査では 15 分程度のパワーポイントを用いた発表がありますので、それを意識した資料を 1 つ作成いただくと効率的かと思います。＞ 資料 1 : XXX プロジェクト.pptx 資料 2 : 日化協化学 CSR 報告書.pdf (p.20-21 参照) 資料 3 : 2025 年**月**日 日化新聞記事.pdf
---	---

記入上のポイント

[1] RC 賞の業績評価項目

- | | |
|--------------|-----------|
| ① RC 理念との整合性 | ④ 継続性 |
| ② 活動の成果・改善度 | ⑤ 横展開の可能性 |
| ③ 努力 | ⑥ 独創性 |

RC 賞の審査では、案件ごとに上記 6 項目について個別に評価した上で、総合評価をします。

[2] 推薦テーマ業績概要について

活動の成果を中心に、努力・継続性・独創性・横展開の可能性などについても簡潔にご記入ください。文字数については、200～250 文字を厳守ください。なお文字数は、WORD の機能を使ってカウントし、記入してください。

[3] 各項目について

① RC 理念との整合性

貴グループ/チームの活動がどの項目に該当するか、ご選択ください。その中で、その項目を選択した理由を簡潔に記述ください。

② 活動の成果・改善度

最も重要な項目です。「労働安全」「保安防災」や「環境対策」などがテーマの場合、成果を数値で表すと訴求力が高まります。また「社会との対話」「環境保全活動」や「化学品製品安全」などの場合には、活動の広がり（範囲・深さ）や活動に参加された人数などを記述ください。

③ 努力

皆様が苦勞された点・努力された点などを余すことなくご記入ください。

[活動・協力の範囲]

活動にご協力いただいた工場・事業所内部の部門だけでなく、本社や研究所、協力会社の方々、外部の方々（地域住民の方、行政の方など）についても、もしいらっしゃれば、漏れなくご記入ください。

[推進上の困難とその克服]

話し合いや対話で困難を克服していくことも多いと思いますが、そのような時には困難克服のために、どのくらいの時間をかけたか、説得のためにどんな活動を行ったか、など具体的に記述ください。

④ 継続性

本案件の活動期間は「〇年、または〇年×ヶ月」というようにご記入ください。なお、長期にわたる活動の中で、成果を上げた最近の活動について今回取り上げている場合には、以下を参考にしてご記入ください。

例：プラントの外部腐食防止活動

- ・プラント外部腐食防止活動：

2015 年より 7 年間 取り組んでいる。

2018 年までは、重防食塗装の実施、配管のパイプラック接触面の防食に取り組んだ。

- ・今回の施策の実施：

今回の保温外装隙間からの雨水侵入対策については、2019 年より取り組み、3 年になる。

さらに、将来にわたって活動が展開できるかどうかについても、ご記入ください。

- ・今後の取組：

今後は「熱センサーをドローンに装着し、高所における外装材のダメージを見つけ出す」という技術確立することで、外部腐食の可能性のある箇所を的確に見つけ出し、外部腐食を未然に防止することに取り組んでいく。

⑤ 横展開の可能性

既に活動を同一工場・事業所内で展開している 或いは他事業所などへ展開している場合は、その旨ご記入ください。また将来的に他事業所、他社、サプライチェーン全体などへ今回の活動が展開できるかどうか、その可能性などについてもご記入ください。

⑥ 独創性

「独創性」といっても、活動の中で、特に工夫された点をご記入いただければ結構です。

例えば、変更管理シートの書き方を工夫し、**Know-Why**（なぜ変更が必要であったか）を確実に伝えるようにした、森林整備活動を通して地域社会の人々と「CO2 削減」について話し合い、関心を持ってもらった、といった地道な活動で構いません。

- 以上 -